

名作再読、拾い読み(14)

『あしながおじさん』 ("Daddy-Long-Legs")

小澤 文彦

ジーン・ウェブスター (Jean Webster, 1876-1916) はアメリカの女流小説家で、ニューヨーク出身です。母はマーク・トウェインの姪であり、父は出版社の経営者でマーク・トウェインの作品の多くを刊行しました。ジーンの前祖母は禁酒運動に参加し、祖母は人種平等や婦人参政権の問題に取り組んでいたことから、文学的であると同時に社会問題にも関心の強い家庭環境の中で育ちました。ヴァッサー・カレッジに入学して英文学と経済学を専攻し福祉更生等の問題に関心を抱きます。在学中から創作活動を続けていましたが、1912年に『あしながおじさん』を発表すると好評を博し、翌年にドラマ化して上演するとブロードウェイで9ヶ月ものロングラン記録を達成しました。

1915年にグレン・フォード・マッキニーと結婚し、カナダのケベック・シティでハネムーンを過ごしましたが、そこでセオドア・ローズヴェルト前大統領の訪問を受けるというハプニングがありました。その後、ニューヨークに戻って創作活動を続けながら、刑務所や孤児院訪問、婦人参政権などの社会問題に取り組んでいましたが、1916年に女兒を出産した翌日に産褥熱で死亡しました。39歳の若さでした。

『あしながおじさん』の内容は、最初の部分を除けば全文手紙形式です。孤児院のジルーシャ・アボットは、彼女の書いたエッセイを読んで文才があると認めてくれた評議員のお陰で大学へ進学することになりました。奨学金と生活費を受ける代わりに、本名を知らされず返事も期待してはいけない相手に対して毎月一回報告を兼ねた手紙を送るというのが条件でした。しかし、彼女は一回どころか月に何度も、この匿名の篤志家に対して時には生真面目に、また時にはユーモア溢れる手紙を書き続けるのでした。

自分の名前をジルーシャからジュディに変え、評議員には勝手に「あしながおじさん」という渾名を付けます。渾名の由来は、孤児院の車寄せの戸口に立っていた背の高い評議員が、迎えに来た車のヘッドライトに照らされた時、その人の影が巨大な "Daddy-long-legs" のように見えたからです。この英単語の訳語は「ザトウムシ」と「ガガンボ」です。「ザトウムシ」は『千と千尋の神隠し』に登場する釜爺 (かまじい) や『新世紀エヴァンゲリオン』の使徒マトリエルのモデルとされていますが、クモやダニに近い仲間です。8本足です。「ガガンボ」はハエ目ガガンボ科の昆虫ですから6本足で大型の蚊に似た姿をしています。蚊と違って血を吸いません。どちらにせよ、手足が長

い人というイメージが伝わります。

手紙の内容はバラエティに富んでいます。初めて汽車に乗って4時間もの旅行をしたこと、自分のお金で買い物ができること、運動会で優勝したこと、農場で過ごして楽しかったことなど喜び一杯のものもあれば、フランス語の動詞の変化を覚えるのに苦労していることや、幾何やラテン語の試験で失敗したことを謝罪するしおらしい内容のものもあります。サリーやジュリアとの交友関係についても、それぞれの家庭環境の違いが明確に描かれていて興味深い内容です。ジュリアの叔父ジャーヴィスとは好みや感じ方が似ていること、そして彼から結婚の申込を受けたけれども愛しているがゆえに断ったことなど、ストーリーの展開が早く飽きがきません。

この小説の中で、ジュディは誰でも知っているミケランジェロやメーテルリンクを知らなかったので皆に追いつこうとして読書に精出しますが、当時、教養として当然視されていた本の名前が相当数挙げられています。『デイヴィッド・コパフィールド』、『青ひげ』、『不思議の国のアリス』、『虚栄の市』などといった書名が挙げられています。ジュディが特に心惹かれるのは、『嵐が丘』や『ジェイン・エア』を書いたブロンテ姉妹です。教会の境内から出たことがなかった姉妹がどうしてあのような登場人物を生み出したのかと不思議がります。また、R. L. スティーブソンが気に入り、「この世にはかくも多くのもの溢れおれば、われら王者の如くに幸福なるべきぞ」といった詩の一節を引用しています。『チェッリーニ自伝』では、いつも朝食前にぶらりと外へ出て行ってふらっと人殺しをしてくるチェッリーニを愉快だと評し、『サミュエル・ピープスの日記』では彼が妻の5倍もの衣装代を使っていたことを記しているのは正直だという感想を述べています。

元気が出る楽しい本として『あしながおじさん』をお薦めしますが、この本を読むと自分がどれほど恵まれた環境にいるか、自分自身を見直すきっかけになるかもしれません。

参考文献

1. Jean Webster, "Daddy-Long-Legs" (Hodder and Stoughton, 1912)
2. ウェブスター著；松本恵子訳『あしながおじさん』（新潮社、1968）

おざわ ふみひこ (係・情報サービス課)